

トラスコ中山株式会社

2008年3月期（第45期）中間決算ダイジェスト

1. 2008年3月期中間決算

（単位：百万円、％）

	中間期実績	構成比	対前年比	修正前中間予算	修正前予算対比	予算差額
売上高	65,033	100.0	0.2	67,800	4.1	2,766
ル	ファクトリールート	48,793	75.0	50,780	3.9	1,986
ー	ワーカーズルート	7,956	12.2	8,080	1.5	123
ト	HCLルート	8,284	12.7	8,940	14.4	655
売上総利益	13,409	20.6	+3.9	13,600	1.4	190
売上総利益率	20.6		(+0.8)	20.1	(+0.5)	+0.5
販売費及び一般管理費	8,985	13.8	+7.1	9,200	2.3	214
営業利益	4,423	6.8	1.8	4,400	+0.5	+23
経常利益	4,559	7.0	4.0	4,500	+1.3	+59
中間純利益	2,520	3.9	+11.0	2,600	3.1	79
PB売上高	14,496	22.3	+2.8	15,200	4.7	624
自己資本比率	82.3		(+3.8)			
1株当たり中間純利益	76.40円		+7.57円	78.82円		2.42円
1株当たり中間配当金	19.50円		+2.00円	20.00円		0.50円

1) 売上高について

(1) **全体**～売上高 650 億 33 百万円（0.2%の減収）主力ファクトリールート堅調維持～
国内製造業の設備増強と高い生産稼働率の状況下で、少量多品種・多頻度の商品ニーズにお応えするため、プロツールに絞った取扱アイテムの拡充やデリバリー機能の強化を実施した。しかしながら、HCLルートの取扱商品の選択と集中の影響により、当中間会計期間の売上高は、前年同期比 0.2%減の 650 億 33 百万円となった。

(2) **ルート別の概要**

～FWLルート - 国内製造業の動き同様に、前事業年度に続き堅調に推移～

～HCLルート - 商品絞込みと取引是正交渉の影響が拡大し減収幅拡大～

ファクトリールート（機械工具商、溶接材料商向け販売ルート）

当社がターゲットとする小口需要に対し、自動受注システムによる効率的な受注活動を展開し、結果として売上高は 487 億 93 百万円（2.2%増）となった。

ワーカーズルート（建築金物商、電設資材商、管工機材商向け販売ルート）

建設・建築等の作業現場から発生する工具・作業用品の需要に対し、幅広い商品アイテムを取り揃えた物流体制で、地域に密着した営業展開を実施した。その結果、売上高は 79 億 56 百万（2.6%増）となった。

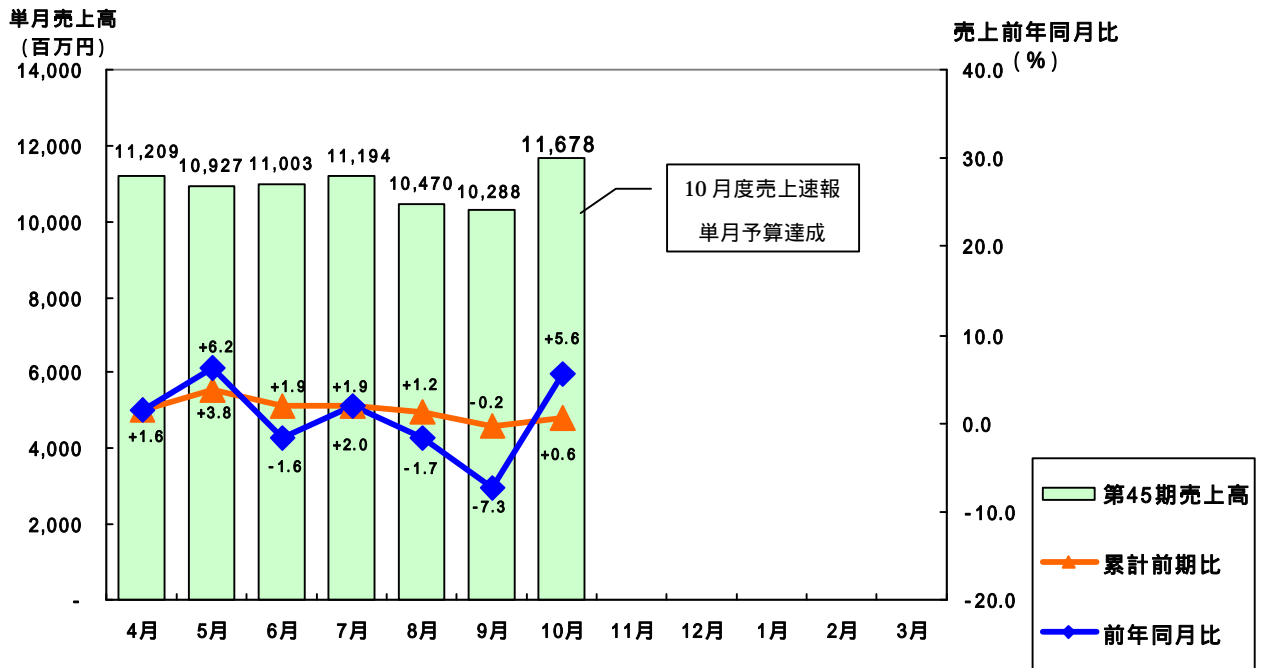
HCLルート（ホームセンター向け販売ルート）

前期より取り組んでいるホームセンター様各社との取引条件見直しの影響が予想以上に拡大しマイナス幅拡大。あわせて取扱アイテムの選択と集中を実施。これらの施策の結果、売上高は 82 億 84 百万円（14.4%減）となった。

(3) **商品分類別の概要** ~当社が最も得意とする小口消耗品で売上高が増加~

当社の得意分野である作業用品において研削・研磨用品、化学用品などの消耗品を中心に好調な伸びが見られた。ハンドツールはH Cルート取引条件見直し交渉の結果、電動工具の売上減少が影響し前年同期比 1.3%減となった。また、製造業の研究開発へのニーズは引き続き高水準で推移しており研究管理用品は、ステンレス用品・研究管理用品を中心として前年同期比 4.3%増と堅調に推移した。

(4) 月次売上高と前年同月比



2) 利益について

(1) **売上総利益と売上総利益率** ~売上総利益率 0.8%上昇の 20.6%~

P B商品の売上占有率が拡大(21.6% 22.3%)したこと、またN B商品に関してH Cルートをはじめとして全社的に低粗利商品の利益率改善の取組みを進めたことが売上総利益率の向上に繋がった。売上高減収はあったものの売上総利益は、売上総利益率の上昇効果により、3.9%増の134億9百万円となった。

(2) **販売費及び一般管理費** ~物流関連の費用、減価償却費が増加~

物流関連費用の増加、また昨年11月稼働の新基幹システムの投資に関わる減価償却費の増加などにより、総額5億93百万円増加し(前年同期比7.1%増)の89億85百万円となった。

(3) **営業利益・経常利益・中間純利益**

~営業利益、経常利益共に減益、中間純利益は増益~

営業利益44億23百万円(1.8%減)、経常利益45億59百万円(3.9%減)となった。中間純利益は、前事業年度に発生した固定資産除却損の影響が、当中間期は減少したことにより、前期と比べ1億49百万円の増益となった。

3) 配当について

上述の中間純利益より1株当たり中間純利益は76円40銭となり、1株当たりの中間配当金は19円50銭とする。尚、期末、通期の配当に関しては後述。

2. 2008年3月期（第45期）の見通しと戦略

（単位：百万円、％）

	上半期実績	対前年比	下半期予想	対前年比	通期予想	構成比	対前年比	
売上高	65,033	0.2%	69,967	+1.6%	135,000	100.0%	+0.7%	
ルート	ファクトリー	48,793	+2.2%	53,207	+4.7%	102,000	75.5%	+3.5%
	ワーカーズ	7,956	+2.6%	9,044	+5.5%	17,000	12.6%	+4.1%
	HＣ	8,284	14.4%	7,716	18.7%	16,000	11.9%	16.5%
売上総利益	13,409	+4.0%	13,991	+2.5%	27,400	20.3%	+3.2%	
売上総利益率	20.6%	(+0.8%)	20.0%	(+0.2%)	20.3%		(+0.5%)	
販売費及び一般管理費	8,985	+7.1%	9,715	+1.5%	18,700	13.9%	+4.1%	
営業利益	4,423	1.8%	4,277	+4.9%	8,700	6.4%	+1.4%	
経常利益	4,559	4.0%	4,341	2.6%	8,900	6.6%	0.9%	
当期純利益	2,520	+11.0%	2,480	+5.6%	5,000	3.7%	+8.3%	
PＢ売上高	14,496	+2.8%	15,904	+11.0%	30,400	22.5%	+6.9%	
1株当たり当期純利益	76.40円		75.15円		151.59円		+18.20円	
1株当たり年間配当金	19.50円		18.50円		38.00円	-	+3.00円	

1) 売上高について ～前期比0.7%増の1350億円を見込む～

(1) 全体の予想売上高

原材料高騰や海外経済の下振れリスクなど不透明感はあるものの、引き続き国内製造業の堅調な設備投資に支えられ、F Wルートは堅調に推移すると予想する。一方H Cルートでの経営施策により、引き続き下半期もH Cルートの減収を見込み、前期比微増の売上高1,350億円（0.7%増）を予想する。

(2) ルート別の概要

ファクトリールート

堅調な国内製造業に支えられ、創業以来初のルート単独1,000億円越え、売上高1,020億円（3.5%増）を見込む。

ワーカーズルート

比較的堅調な建設業に支えられ、売上高170億円（4.1%増）を見込む。

H Cルート

前期よりホームセンター各社様との取引条件の是正・正常化を経営施策の柱として取組んでいる。またホームセンター業界におけるポジショニングをより明確化するため、さらなるプロツールカンパニーへの取り組みが必要であると考え、取扱商品の選択と集中政策をすすめている。その影響により売上高は、160億円（16.5%減）と約30億円の減収を見込む。

取引条件の是正とは

- ・ 採算割れ取引の排除
- ・ 新店オープン、周年セール等、限度を越えた特別協賛の中止
- ・ 他社納入商品の引き取り依頼の拒否
- ・ 必要以上の販売要員の動員依頼の拒否

取扱商品の選択と集中政策とは

- ・ 園芸、エクステリア商品の取扱中止

2) 利益について

(1) 売上総利益率

企業の健全な発展の為に売上総利益率の改善の取組みを全社的に実施している。上半期迄の実績は20.6%と上目に出ているが、オレンジブック製作による売上原価の伸び等により例年第3四半期の粗利率が鈍化することを加味し通期で20.3%を予想する。

(2) 販売費及び一般管理費

昨年11月に稼動した新基幹システムの減価償却費や運営サポート費用の増加に伴い、7億36百万円増の総額187億円(4.1%増)を見込む。

(3) 営業利益・経常利益・当期純利益

上記記述のとおり、営業利益は87億円(1.4%増)、経常利益89億円(0.9%減)、当期純利益50億円(8.3%増)を予想する。

3) 配当について

1株当たり当期純利益を151円59銭と予想し、期末の年間配当金18円50銭、通期の年間配当金38円を予想する。

当社配当金の計算基準

1株当たり当期(中間)純利益	年間(中間)配当金
80(40)円を上回る場合	1株当たりの当期(中間)純利益×25%
80(40)円を下回る場合	20(10)円

・カッコ書き()は中間期の決算基準。

・計算上の10銭単位端数については50銭刻みで繰上げする。

(01銭~49銭 50銭、51銭~99銭 1円)

4) 設備投資・減価償却について

	第45期上半期(百万円)	第45期通期予想(百万円)
設備投資	2,816	7,300
減価償却	1,074	2,129

設備投資の内訳)

45期上半期 設備投資(実績)	(百万円)	45期下半期 設備投資(予定)	(百万円)
プラネット北関東(建物)	616	プラネット東海(建物)	1,660
プラネット滋賀(建物)	630	プラネット滋賀(建物)	630
福井営業所(建物)	241	プラネット東北(土地)	1,250
秋田営業所(建物)	78	宇都宮営業所(土地)	220
小山営業所(土地)	145	秋田営業所(建物)	182
リゾートマンション(神戸・京都・有馬)	21	小山営業所(建物)	85
システム関連	943	システム関連	407
その他	142	その他	50
合計	2,816	合計	4,484

5) 当期における開設・閉鎖事業所について

【上半期 実施済み -】

- 2007/4 H C 大阪支店、H C 福岡支店 移転
- 2007/4 弘前オフィス、寝屋川営業所 移転
- 2007/6 伊勢崎営業所（群馬県伊勢崎市）開設
- 2007/6 プラネット北関東物流センター（群馬県伊勢崎市）開設
- 2007/7 苫小牧営業所（北海道苫小牧市）開設
- 2007/9 福井営業所（福井県福井市）移転

3 . 中期的な業績見込み

	2008年3月期(第45期)		2009年3月期(第46期)		2010年3月期(第47期)		
	計画	前期比	計画	前期比	計画	前期比	
売上高	135,000	+0.7	142,000	+5.2	149,000	+4.9	
内訳	ファクトリールート	102,000	+3.5	108,000	+5.9	114,000	+5.6
	ワーカーズルート	17,000	+4.1	18,000	+5.9	19,000	+5.6
	H C ルート	16,000	16.5	16,000	+0.0	16,000	+0.0
プライベートブランド商品売上高	30,400	+6.9	34,500	+13.5	37,500	+8.7	
売上高に対するプライベートブランドの占有率	22.5	-	24.3	-	25.2	-	
売上総利益	27,400	+3.2	29,000	+5.8	30,700	+5.9	
売上総利益率	20.3	-	20.4	-	20.6	-	
販売費及び一般管理費	18,700	+4.1	19,500	+4.3	20,300	+4.1	
営業利益	8,700	+1.4	9,500	+9.2	10,400	+9.5	
営業利益率	6.4	-	6.7	-	7.0	-	
経常利益	8,900	0.9	9,700	+9.0	10,600	+9.3	
経常利益率	6.6	-	6.8	-	7.1	-	
当期純利益	5,000	+8.3	5,600	+12.0	6,100	+8.9	
当期純利益率	3.7	-	3.9	-	4.1	-	
一株当たり配当金	38.00円	配当性向25.0%	43.00円	-	47.00円	-	

<中期的な経営戦略に関して>

1 . モノづくり現場の利便性向上

- ・仕入先様の増加策により商品取扱いアイテムを拡充し、販売店様の商品選択の幅を拡大
- ・プライベートブランド商品の機能性重視と品質向上
- ・大型物流センター建設による在庫アイテムの拡充と物流システムの高度化によるデリバリー能力の向上（在庫200億&置く計画）
- ・インターネット受注システム及びFAX自動受注システムの活用による納品の正確性、迅速性の向上
- ・プロツール情報サイト“オレンジブック.Com.”の活用による商品情報検索サービスの機能強化
- ・販売店様向けにユーザー受注代行システム「MR.Orange」を提供することにより販売店様の受注業務効率の向上
- ・地域市場特性に合わせた営業拠点の在庫保有による納品率、即納性の向上

2. 利便性向上に向けての事業インフラの増強

物流力の増強

販売店様へのクイックデリバリーの強化を目的に、物流エリア再編のため新規物流センターの配置、既設物流センター在庫及び地域特性を反映した営業所在庫を拡充する。新検証ツール（エリア適正在庫システム）を導入し、欠品商品の防止と過剰在庫を抑えた一定の適正在庫の維持を実現する。

【物流センターの設備計画】（10/31 現在 物流センター18ヶ所）

プラネット東海（愛知県岡崎市） 平成20年5月予定

プラネット滋賀（滋賀県竜王町） 平成20年8月予定

プラネット東北（宮城県仙台市） 平成21年6月予定

営業拠点の増強（10/31 現在 営業拠点97ヶ所）

販売面、物流面でのサービス向上を目的とした既存の営業エリア分割による営業拠点の増強

【出店計画】藤井寺営業所、大府営業所（仮称）、名城営業所（仮称）、
竜王営業所（仮称）、小山営業所（仮称）

【移転計画】秋田営業所、和歌山営業所、奈良営業所、神奈川支店、
岡崎支店、宇都宮営業所、仙台支店